

公共交通（陸上交通）

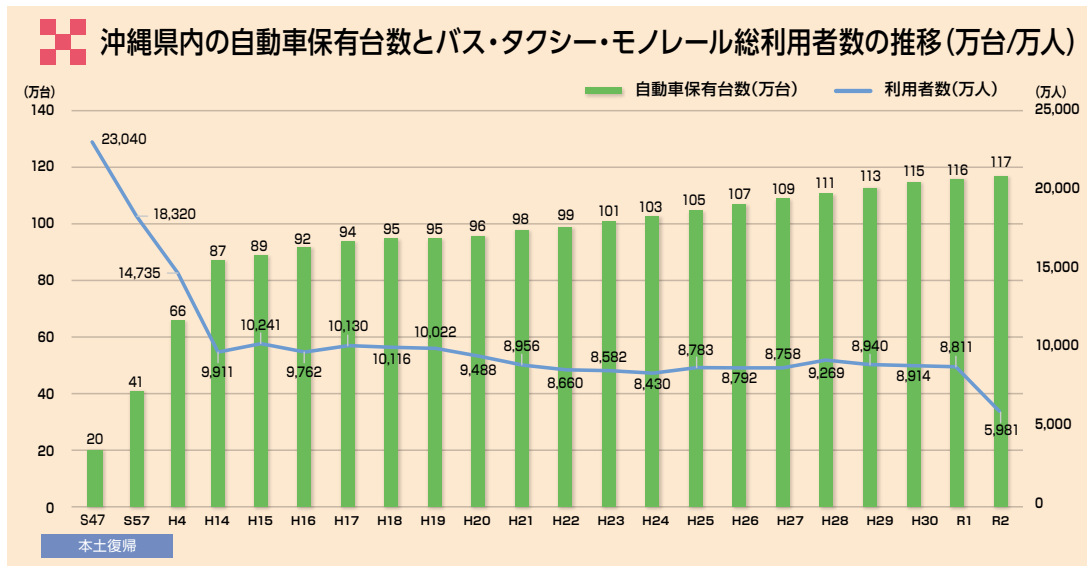
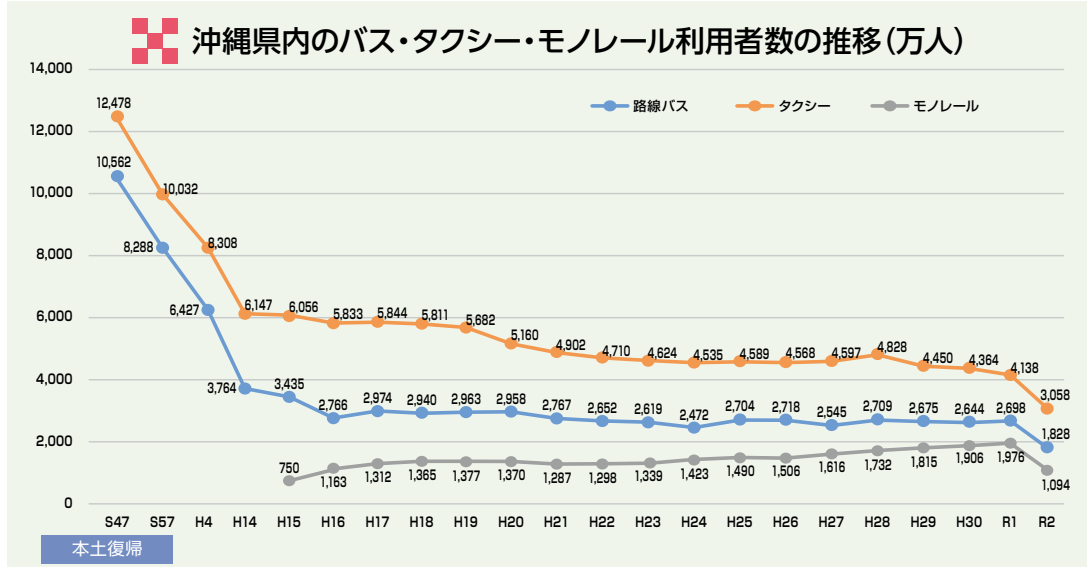
県民の足の確保と充実

公共交通

沖縄県内においてバス、タクシー及び平成15年に開業したモノレールは、通勤・通学・通院等県民の日常生活を支えるとともに、観光客の移動手段として重要な役割を担っています。さらに、SDGsの観点からも今後ますます重要になっていくものと思われまます。

しかし、利用者は平成15年度から令和元年度までは、モノレールは緩やかに増加しているものの、バスは横ばい、タクシーは緩やかに減少している状況にあり、令和2年度には新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、バス、タクシー、モノレールのいずれも利用者が大幅に減少しています。

新型コロナウイルス感染症の収束後を見据えた利用客の回復に向けて、更なる利便性の向上に努めるなど積極的な取り組みが求められています。



タクシー



モノレール



バスターミナル(旧)

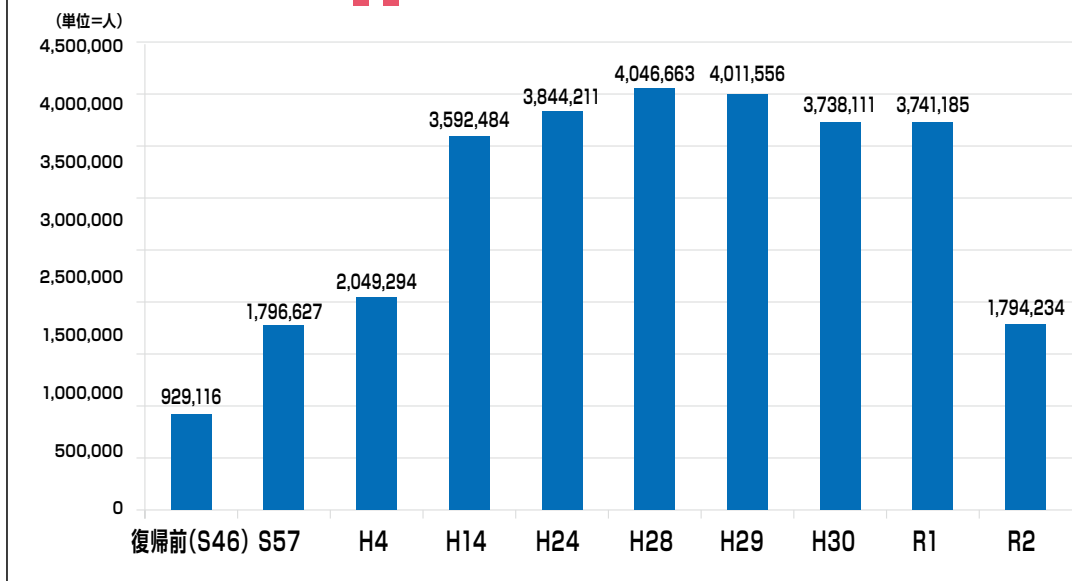


バスターミナル(新)

公共交通（海上交通）

沖縄本島と離島、または離島相互間を結ぶ離島航路は、復帰前の昭和46年は旅客輸送人員数が約93万人でしたが、徐々に増加し、近年においては新型コロナウイルス感染症の影響による極端な減少があった令和2年度を除き4百万人前後で推移しています。しかし、観光需要の多い一部の航路を除いては、運送需要が低迷傾向にあり、赤字経営を余儀なくされています。その助成策として、一定の要件を備えた赤字航路については、国庫等から補助金を交付し、令和4年3月現在、16事業者が補助を受けながら運航を継続しています。そのような状況ではありませんが、船舶及び旅客施設等のバリアフリー化は確実に進められており、令和3年3月末現在、17事業者18航路32隻がバリアフリー基準適合船舶として就航しています。

旅客輸送実績（離島航路）



【現在、久米島航路に就航している「フェリー海邦」(1,196トン)】



【復帰時に久米島航路に就航していた「第一久美丸」(171トン)】▶